

丹波市人権・同和教育協議会

人権ネットワーク たんば

第36号



発行 丹波市人権・同和教育協議会
〒669-3309
事務局 丹波市柏原町柏原3619
TEL・FAX 0795-72-2770
e-mail:tambashi-doukyou@kne.biglobe.ne.jp

中学生の主張

障がいのある人に ついて

氷上中学校一年

前田成美さん



小学校で、これから生きていくために大切な理解する心、助け合う心を学ぶ五つの福祉体験がありました。一つ目は、手話です。手話を教わった時期は、一・二年生でした。幼いながらも、「福祉は大事だな」と思いました。手話は、耳が聞こえない人、しゃべる事が難しい人などが使うコミュニケーションツール・方法です。手話は特に、覚える事がたいへんだと思います。少し興味があつたので調べてみましたが、私は全く覚えることもできませんでした。私が、漢字を死に覚えるように、手話を使う人も一生懸命覚えておられる事を知りました。三年生では、目が見えない人と同じ視界になるためにアイマスク体験をしました。目を瞑るだけでは光が見えるけど、アイマスクをつけることで、光が全く見えず真っ黒でした。「怖くないのかな。」「たいへんな思いをされているんだな。」など強く思った貴重な体験でした。四年生では、車い

すを体験しました。病院に行つた時、必ず見るのは車いすです。車いすは、けが人はもちろん、お年寄りの方も障がいのある方も使われます。そのうえ、車いすは、操作が一人では難しそうな作りです。だから自分が体験する事で、気にかけてあげたり、何かお手伝いできることはないかと思いました。五年生では、点字体验をしました。目が見えない人が、言葉を読むために指先きなどを使って読む、記号文字です。初めは点字とは防音性の部屋にある穴の事だと思っていました。身近にあるものだと、洗濯機や缶の蓋などに点字が使われています。それくらい点字のことは、知りませんでした。だから、無知な自分に対し、情けない気持ちでいっぱいでした。

そして、もう一つある人の言葉が忘れられなかつたからです。学校に、早稲田大学から講師の方が来られました。北小学校出身の芦田創さんです。芦田さんは義手でした。「義手だから、生活もたいへんだな。」と思つていました。しかし、一番驚いたのは、陸上部だったことです。「義手なのに、すごいな。」講師の方に対する感想にすべて「義手」という言葉が入つていました。自分が義手である事、義手で生活してきて思つた事を堂々と述べていました。そして、絆が目に見えはじめる事を願っています。少しでも絆が見えはじめている私の願いはほんの一端に過ぎないけど、明日からみんなの考え方

してほしい。」と言われました。この言葉から私は、同じ社会で生きている者同士、お互いを認め合うことの大切さが必要だと気付きました。(たいへんそう。)(かわいそう。)といふ感情は、まちがいだと分かりました。これが私の忘れられない出来事です。芦田さんは、日本が本当の絆で結ばれてほしいと願つておられました。この出来事から障がいのある人に対する必要な心、理解する心と助け合う心だと学んだのです。理解する心では、もし車いすに乗つておられる方がいたら、(ここは、せまいからあつち行こう。)(のぼり)やすいよう、協力しよう。など、そこに障がいのある人がいややすいよな雰囲気を作ること。(自転車がじやまだから、のけよう。)困つてそうだな。手伝つてあげよう。助け合う心では、必要としている人を気づかうこと。ちょっとした気づかい、行動がとても大事です。決してアメリカと同じようにならなく、おもてなしの心を障がいのある人の方にも注ぎたいです。そういう考え方が一人でも増えていけば、誰もが納得する社会への一歩が踏み出せるはずです。

私は、正しい理解と助け合いの力で、絆が目に見えはじめる事を願っています。少しでも絆が見えはじめている私の願いはほんの一端に過ぎないけど、明日からみんなの考え方少しだけでも変わる努力をしていきた

第六十八回 全国人権・同和教育研究大会

第六十八回全国人権・同和教育研究大会が去る十一月二十六日（土）・二十七日（日）、大阪市で、メインテーマに「差別の現実から

深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」を掲げて開催され、丹波市からは二十二名が参加しました。

今回の研究大会は、熊本市で開催予定でしたが、地震の関係で急遽大阪で開催ということになり、特別分科会と分科会のみ開催と言う異例の大会になりました。

二十六日午後からと二十七日は二十一分散会会場に分かれ、五分科会と特別分科会が開催され、丹波市からの参加者は、希望の分科会に参加しました。

分科会のひとつ、第一分科会「人権確立をめざす教育の創造」では、

（一）育ちと学びの基礎となる

乳幼児教育の充実を

（二）部落問題学習の充実を

（三）多様な人権に関する学習を

（四）なかまづくりを通しての

テーマで実践報告がありま

した。

保護者との関係における、い

い実践が紹介されていました

で以下に示します。



全人教大会 第1分科会

家庭との連携

（一）母親の思いによりそつて、家庭訪問時に家での様子を母親と話す中で、保護者同士の関わりのしんどさを話して、保育者が保護者の思いを受け止め、ていねいに寄り添っていくことは、保護者と保育者の信頼関係を築くことであり、そのことがAの成長にも繋がると思われる。保育者は母親の気持ちを受け止め「いろいろな経験を通して、友達との関わり方などをA自身に感じられるよう」といふ保育者の願いを伝えた。その後も登園・降園時には積極的に話しかけ、Aの園での様子を伝えていくようにした。四月当初は、母親はAのほしくない行動についての話が多かったが、園での様子やトラブル時の保育者の願いや関わりを具体的に伝えていつたことで「Aのいいところを引き伸ばそうとしてくれて、ありがとう。そんな風に思つてもらって嬉しいです」と、母親の素直に喜ぶ言葉が聞かれた。

【参加者の感想を伝えます】

大路小学校 荒木 裕一

人を人として尊ぶという人間尊重の精神を、人権教育・道徳教育をはじめ全ての教育活動の中で育て、「今日も来てよかつた」と全ての子どもが思えるような学校・チームである。何よりも、子ども達の身近な存在である教師として、一人の人間としての確かな人権感覚こそが大事であると、私は学校以外の研修の場にも積極的に参加するようにしてきた。その研修の場が、全国人権・同和教育研究大会であり、今回で3回目の参加となつた。私が歳をとってきたということもあるのか、若い世代の人たちが熱心に討議に耳を傾け、積極的に発言する姿を目に見て、人権教育の拡がりを感じるとともに頼もしく思えた。

私は第2分科会「自主活動」に参加したが、会場は多くの在日コリアンが暮らし、「猪飼野」と呼ばれた生野のコリアンタウンにありがとう。そんな風に思つてもらつて嬉しいです」と、母の素直に喜ぶ言葉が聞かれた。

歴史、伝統文化を学べる民族学級

の報告があった。その他には、中学校時代に放送部の活動として、性的マイノリティについての啓発番組を作り、校内外で啓発活動を行った福岡の女子高生の報告があつた。香川の高校は、生徒が主体的に取り組む人権・同和教育をすすめ、学年ごとの現地訪問学習会を活かし、生徒が学んだことや感じたことをクラスに自分の言葉で伝えている。そして、生徒同士の縦割り学習会、人権通信などを活用して、学びをその場限りに終わら

せることではなく、振り返り、共有することで深い学びにつなげているという報告であった。小・中学教育の可能性を感じた。

最後に、研究大会の基調にもあつたように、「平和・共生・基本的人権の尊重が強く希求されている今日において、同和教育を基軸とする人権教育の果たす役割はますます大きくなっている。」と改めて感じた2日間であった。

今年の12月9日、議員立法の「部落差別の解消の推進に関する法律」が参議院本会議で、可決成立しました。

この法律は、現在も存在する部落差別の解消に向けた相談体制の充実や、教育、啓発、実態調査を実施するよう明記しています。「部落差別」の言葉をはじめて法律名に盛り込んだ法律です。

インターネットの差別情報の氾濫や、結婚差別、差別身元調査事件等、なお存在する部落差別の実態をふまえ、「差別は社会悪」ということを明確にしています。

部落差別の解消の推進に関する法律が成立

の報告があつた。その他には、中学校時代に放送部の活動として、性的マイノリティについての啓発番組を作り、校内外で啓発活動を行った福岡の女子高生の報告があつた。香川の高校は、生徒が主体的に取り組む人権・同和教育をすすめ、学年ごとの現地訪問学習会を活かし、生徒が学んだことや感じたことをクラスに自分の言葉で伝えている。そして、生徒同士の縦割り学習会、人権通信などを活用して、学びをその場限りに終わら

せることではなく、振り返り、共有することで深い学びにつなげているという報告であった。小・中学教育の可能性を感じた。

最後に、研究大会の基調にもあつたように、「平和・共生・基本的人権の尊重が強く希求されている今日において、同和教育を基軸とする人権教育の果たす役割はますます大きくなっている。」と改めて感じた2日間であった。

部落差別の解消の推進に関する法律（目的）

第一条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴つて部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本憲法の理念にのつとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もつて部落差別のない社会を実現することを目的とする。

（基本理念）

第二条 部落差別の解消に関する施策は、全ての国民が等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのつとり、

2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものとする。
（教育及び啓発）
第五条 国は、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行つものとする。
【省略】

第六条 国は、部落差別の解消に関する施策の実施に資するため、地方公共団体の協力を得て、部落差別の実態に係る調査を行うものとする。

（部落差別の実態に係る調査）

第二条 部落差別の解消に関する施策は、全ての国民が等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのつとり、

部落差別を解消する必要性に対する国民一人一人の理解を深めよう努めることにより、部落差別のない社会を実現することを旨として、行われなければならない。
差別のない社会を実現することを旨として、行われなければならない。



二〇一六年

まじころ

丹の里 人権のつどい 開催



大西会長 あいさつ

人権ネットワークたんば

十二月十一日（日）、四百名の市民の参加を得て、「丹の里人権のつどい」を春日文化ホールで開催しました。

この行事は、毎年人権週間にあわせ、丹波市、丹波市教育委員会、神戸地方法務局柏原支局、柏原人権擁護委員協議会、丹波市人権・同和教育協議会、人権啓発活動北阪神・篠山・丹波地域ネットワーク協議会の共催で行うものです。

谷口市長のあいさつの後、中学生権作文コンテスト兵庫県大会丹波・篠山地区予選の入賞者の表彰が行われました。

続いて、人権作文コンテストで優秀賞を受賞した

○春日中学校 山本 稜姫さん
「見ているだけで負わせる傷」
○氷上中学校 大木 寧々さん
「一つ一つの行動」
○市島中学校 山本 紗与さん
「観て聴く気持ち」

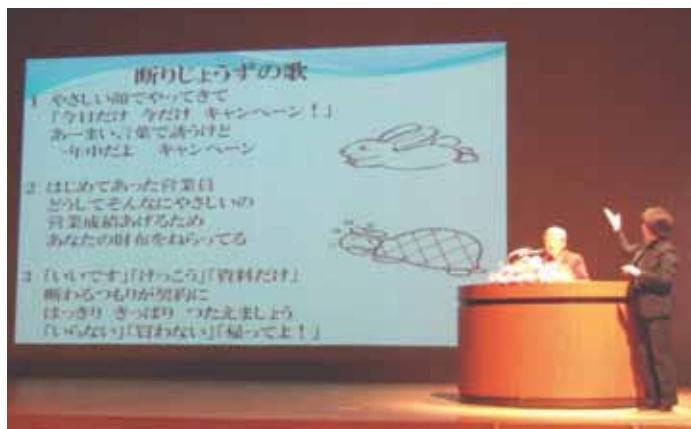
「見ているだけで負わせる傷」
「一つ一つの行動」
「観て聴く気持ち」

十二月十一日（日）、四百名の市民の参加を得て、「丹の里人権のつどい」を春日文化ホールで開催しました。

この行事は、毎年人権週間にあわせ、丹波市、丹波市教育委員会、神戸地方法務局柏原支局、柏原人権擁護委員協議会、丹波市人権・同和教育協議会、人権啓発活動北阪神・篠山・丹波地域ネットワーク協議会の共催で行うものです。

谷口市長のあいさつの後、中学生権作文コンテスト兵庫県大会丹波・篠山地区予選の入賞者の表彰が行われました。

続いて、人権作文コンテストで優秀賞を受賞した



人権のつどい 丹波市愛育会発表

とその活動から見えてきた高齢者の人権課題について発表しました。
最後は盲目のヴァイオリニスト増田太郎さんによる音楽とトーク『歩き出すのは自分次第』でした。心に響く歌声とともに、できる限り目を向けて前向きに生きていきました。

- 第64回 兵庫県人権教育研究大会
丹波地区大会
△とき／7月29日（土）
△ところ／篠山市
- 第64回 兵庫県人権教育研究大会
中央大会
△とき／10月1日（日）
△ところ／加古川市
- 第69回 全国人権・同和教育研究大会
△とき／12月2日（土）
△3日（日）
△ところ／松江市
- 丹の里人権のつどい
△とき／12月10日（日）
△ところ／春日文化ホール

2017年度 研究大会のこ案内（予定）

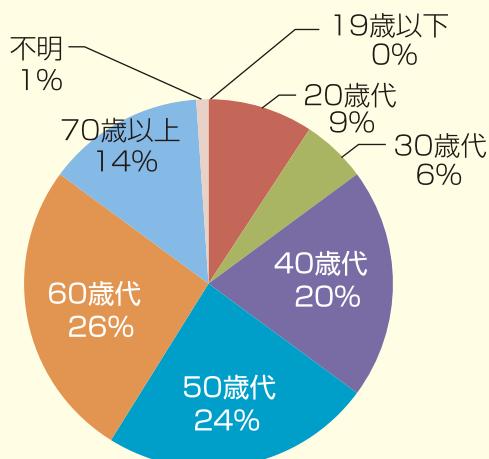
参加者からいただいたアンケートの結果は以下の通りでした

人権のつどいアンケート

アンケート回答者数282人



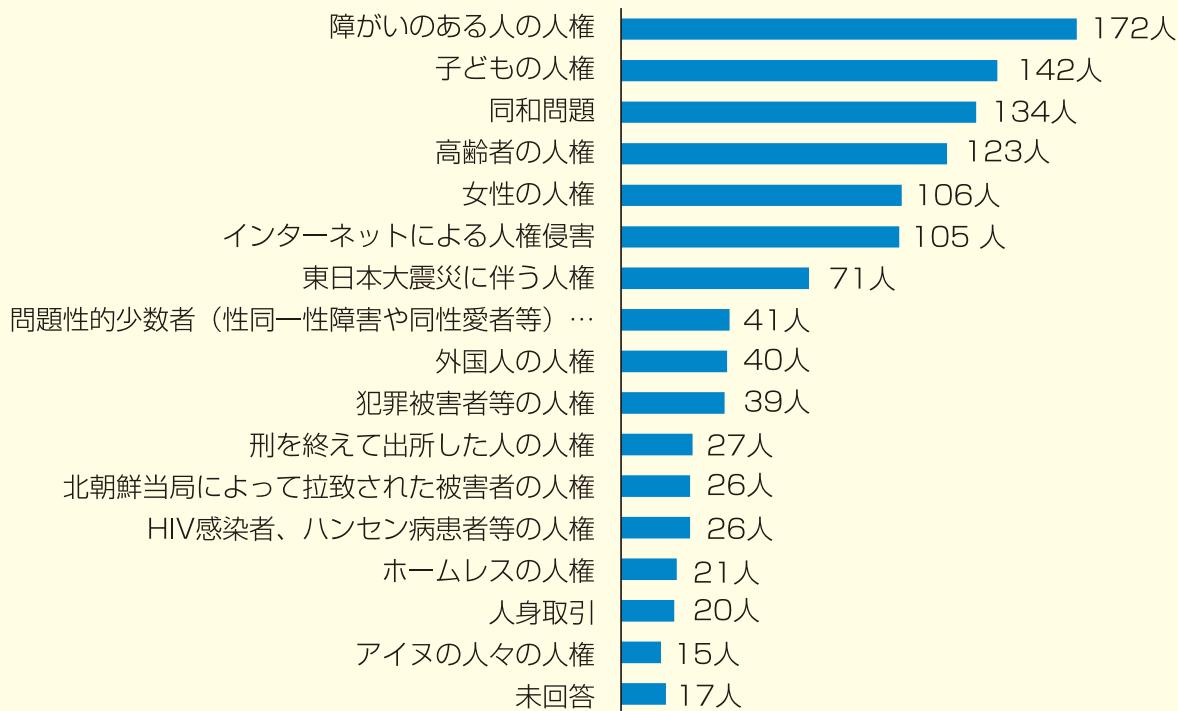
参加者年代



人権に関する関心や理解は深まりましたか？



どんな内容の人権問題に关心をお持ちですか（複数回答可）



親に対して 今だから言える ごめんなさい

3



お義父さんへ 生前は、なかなかお義父さんの話がきけませんでした。ごめんなさい。今、お義父さんがお世話をされた庭を見て、私に心を和ませて頂いています。ありがとうございます。

<54歳>

学生時代、部活の試合があっても「来なくていいよ」って言ってごめんね。本当は頑張ってる姿を見て欲しかった。でも、周囲の目が気になって素直になれなかったよ。親になった今なら分かる。勝っても、負けても子どもの頑張りを応援したい。この目で見たい。それが親なんだなって。これからは孫の応援よろしくね！

<43歳>

編集後記
2016年度に計画した事業が終わろうとしています。今年度はホームページを立ち上げ活動予定や報告を行ってきました。この「人権ネットワークたんば」もホームページに掲載し、丹波市以外の人にも見ていただけるようになります。丹波市に人権を文化として定着させるため、しっかりと総括しつつ、「部落差別の解消の推進に関する法律」による教育及び啓発の実践を今後も地道に続けていきます。

長年の知識と確かな技術と
自由な発想—
新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ

防犯設計から施工まで
徹底サポート！

安心と安全のために

オフィス全体の
セキュリティ対策

- 情報漏えい
- 不正アクセス
- なりすまし
- データ改ざん等ブロック
- 迷惑メールブロック等
- UTM (統合脅威管理アプライアンス)
- Unified Threat Management

株式会社 ユニットシステム
株式会社 ユニットシステム
UnitSystem Corporation <http://www.unitsystem.jp/>
E-mail : info@unitsystem.jp

日本・世界の旅
あなたの旅を応援します!
予約受付中

団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお気軽にご相談下さい
■JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外パック旅行・国内パック旅行の手配
■宿泊のみの手配や食事・観光施設の手配も行います
■貸切バス・航空券・JR券・フェリー券など各種船車券の手配も行います
■格安海外航空券・海外のホテルの手配・パスポートの代理申請
など幅広いご要望にお応えいたします

お申込み・お問い合わせ
関西旅行社
TEL (0795) 72-0325 FAX (0795) 72-2416
E-mail: kansai-ryoko@mxa.nkansai.ne.jp



無料
お試し購読
受付中!!

詳しくは下記へ
お問い合わせ下さい

地域のニュース読むなら

話題が
豊富！

丹波新聞
TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956

丹波新聞 検索